

2020年6月30日

「何としても共産の手から守ります」

- 青木区長は、これまでの在籍期間に共産党のどういう要求、政策、「手」に対してそれを阻止し区(民)を守ってきたのか、具体的に事例をあげてください。
- また、共産(党)の主張、要求、政策などで、当初はともかくとして後年になってその主張、要求、政策を取り入れて実現したような事例はありませんでしたか。 — 例えば「待機児童の解消」といったことなどは、共産党も主張していたのをどのように考えたらいいのでしょうか。
- 区民は、これから区政に対して何らかの請願、陳情を議会に提出するときに、共産党の議員を通して行った場合と、そうでない場合には、区長としては、その対応に違いが起こるということでしょうか。今後の区政において「共産の手から守る」ためにどのような事例を想定しているのでしょうか。「何としても共産の手から守ります」というその手段方法について手の内を公開しろというのはルールに反する気もしますが、主権者である区民として、それなりの覚悟をしなければならないという気もします。なるべく具体的な戦略戦術を教えてください。
- 今次区長選挙にあたり「何としても共産の手から守ります」はトップのメインスローガンに書かれました。以降、区長としての発言、提起される時にぜひそれが共産の手から守る内容方法志向であることを明確に提示してください。それによって区長が公約実現のためにどのように考え、取り組まれているかを判断することができますので、よろしくお願いします。
- これまでの区長として仕事をされてきた中で「共産の手から」区政、区民の何をどのように守ってこられたのか、その成果とご苦勞の事柄を明らかにしてください。私たちには、その認識を共有する権利と義務があると思います。